

大空 (生徒・保護者向け) 29号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年2月22日(月)

モラトリアムだからできること(附属中学校立志式式辞)

□本日の概要

- 15歳前後に大人になることを意識させる行事や言葉が多く存在するのは、それが人間が大人になるために大切なことだと本能的に感じ取っているからである。
- 式典とは、切れ目のない日常に何らかの節目を刻み、人生の意味を考えさせるためにある。形式的にならないよう、式典の意義を考えて欲しい。
- 大人の世界は未知の世界であり、学ぶ立場である中高生は謙虚な気持ちを持って学ぶ必要がある。
- 失敗を恐れず、何回もチャレンジして欲しい。大人でも子供でもない中高生の期間はモラトリアム期間と言われるが、チャレンジと失敗が許されている期間である。試練が人間力を高める。

□15歳に成人の儀式が多いのはなぜだろう？

立春も過ぎ、学校周辺の木々も少しずつ芽吹き始めた今日この頃、附属中学校PTA会長 田迫昭彦(たさこ あきひこ)様をはじめ、多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、このように立志式が挙行できますことは、誠に喜びに堪えないところであり、厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんは立志式について事前に学習したと思いますが、改めて、このような式典を実施する意義についてお話したいと思います。三省堂の大辞林の説明では、「元服にちなんで(数え年の)十五才を祝う行事。参加者は、将来の決意や目標などを明らかにすることで、おとなになる自覚を深める。」と、その意義が説明されています。また、立志式の由来については、元服以外にも、論語の為政にある、「我十五にして学に志す」という言葉

や、幕末の志士、橋本左内が15才の時に書いた「啓発録」の中の「立志」に由来するなど、諸説あるようです。

このように、立志式の由来は明確ではありませんが、大切なのは、15才に関わる言葉や儀式が、この世にいくつも存在しているということです。おそらく、私たちの祖先は、15才くらいになったら、子供の意識を変え、大人になるという自覚を持たせることが大切で、そのために、何らかの儀式や言葉が必要だということを、本能的に感じ取っていたのです。

以前、私は、朝陽祭の時に、「お祭り」という行事が世界中に存在するのは、お祭りというものが、日常に新鮮さを感じなくなってしまいがちな人間の意欲を高めるために、人間が考え出した仕組みではないかという話をしました。誰かが始めたことが、時間をかけて継続されたものが習慣であり、それが広がると「文化」になります。成人の儀礼も同じです。日本だけでなく、世界中に、成人に関する通過儀礼や、言葉が残っているのは、相応しい年齢になったら、大人の世界が近づいたことを意識させるため、何かを体験させたり、先人の言葉を読んだり、自分で言葉をしたためたりすることが、人間にとって大切なことだと、皆、直感的に感じとっているのです。

□式典の意義とは

それでは、どうやって大人になる自覚を高めたらいいのでしょうか。昔の日本では、まず、髪型や服装、つまり大人としての形を変えることから入りました。形より中身が大切とは良く言われますが、形を変えるのは、形が人間の内面、つまり心に大きく影響するからです。皆さんも、中学校

の制服を初めて着たとき、ちょっと大人になったような気持ちを感じませんでしたか？このように、形は人の心を変える力があるため、形を大切にすする伝統は、今でも私たちの社会のあちこちに残っています。しかし、時間が経つにつれ、人は何のために形があるのか、その意義を忘れてしまいます。「形式的」という言葉は、辞書によれば「形式だけを重んじ、内容を問題にしないさま」とあります。だから、今日のような立志式も、形式的にならないように、その意義について、改めて確認することが大切なのです。

今日は、大人という新たな世界に一步踏み出す、その決意を固める日です。つまり、普通の日常の延長ではなく、ちょっと特別の日です。日常というものは、絶え間のない時間の流れですので、日常の中ではじっくりと物事を考えることができません。でも、大人になるためには、自分の過去や将来のことなどをじっくりと考える時間が必要です。そのため、日常を止め、じっくり考える時間を持つため、人は、今日の立志式のような「式典」を考えたのではないかと私は思っています。人生には、入学式、卒業式、結婚式、あるいは葬式など、様々な式がありますが、いずれも、何らかの節目を刻み、人生の意味を考える時間を与えてくれるものであり、どれも大切な文化です。

□謙虚な気持ちで学ぶ

さて、立志式を実施したからといって、皆さんが突然、大人になるのではありません。今日は、皆さんは大人の世界の入り口に立っただけであり、本当の大人になるには、ある程度の時間がかかります。皆さんが成長するには、これから、皆さんがどのような態度で学校生活を送るかが大切です。

まずは、謙虚な気持ちになってください。大人の世界は未知の世界です。皆さんは学んでいく存在です。学ぶものに大切な心は、謙虚な心です。「教えてくれよ」ではなく、「教えてください」という気持ちがなければ、自分の内面は変わりません。人は、新しい世界に入る時、自然と謙虚な気持ちになります。例えば、初詣で神社の境内に入る時、鳥居の所で頭を下げる人を見かけたことがあるで

しょう。武道では道場に向かって一礼します。西附の皆さんは、校舎に入る時に一礼しています。つまり、自分を高めてくれる場所に踏み込み、教を請う時、人は謙虚な気持ちになり、それが頭を下げるという形に表れているのです。「学びたいのです、教えてください。」という謙虚な気持ちで、多くの人、多くのことから学んでください。

□失敗を恐れるな

次に失敗を恐れないでください。内面を成長させるためには、様々なことに挑戦し、試練を乗り越えなければなりません。様々なことに挑戦すると、成功の喜びもありますが、逆に、失敗することも多くなります。失敗を恐れるなど私は言いましたが、これは簡単ではありません。私自身、中学校、高校と、失敗を恐れてきました。実は、誰も失敗は怖いのです。しかし、ZARDの歌ではありませんが、「涙の数だけ強くなれる」ということも、また真実です。心理学では、大人になるための猶予期間を「モラトリアム」といいます。中学・高校というのは、大人になるための過渡期、つまりモラトリアム期間なのです。皆さんは、時には大人として扱われ、時には子供だからまだ早いと言われ、矛盾した扱いを受けることに困惑したことがあると思いますが、逆に、これは、失敗が許される期間ゆえの曖昧さだと、前向きに捉えてください。もちろん、皆さんには責任がないから軽はずみなことをしていいという意味ではありません。皆さんは、チャレンジして、失敗し、再びチャレンジすることが許されているのです。学校というものは、子供が安全に失敗することができる場です。まずは何事にもチャレンジして、大いに失敗してください。

自分が苦しんだことがある人は、将来、他者に優しい大人になります。皆さんは、挑戦して、転んで、失敗して、涙を流す15才であってください。そして、皆さんが、10年後に今を振り返った時、あの頃の涙があったからこそ、今の自分があるのだと思えるような、そんな日々を送って欲しいと思います。試練が人間力を高めます。頑張ってください。